

CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社しまむら新本社	階数	地上12F地下1F
建設地	埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	3,000 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2018年10月15日
敷地面積	7,061 m ²	作成者	花村 明秀
建築面積	2,591 m ²	確認日	2018年10月22日
延床面積	29,737 m ²	確認者	星野 亮



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 81%
③上記+②以外の 81%
④上記+ 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.3

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 さいたま新都心駅から至近の利便性の高い敷地にて計画された本社ビルの計画である。高いレンタブル比、高い天井高による開放的な執務空間を確保すると同時に、Low-ガラスやLED照明の採用等環境への配慮も行っている。		その他 内外装材料として、天然石を大部分で使うことにより、維持管理にかかるエネルギーや資源を抑えることに寄与している。
Q1 室内環境 開口部を大きく取ることにより、充分な外光による照度を確保可能。高い開口部の遮音性能、吸音材の採用により音環境への配慮も行っている。	Q2 サービス性能 3mの天井高さを確保することで快適性を追及し、内装計画による演出や維持管理に対して十分に配慮した計画を行っている。	Q3 室外環境 (敷地内) シンプルながらも格調高いデザインにより、周辺のまちなみや景観に対してもバランスよく調和した良好な関係を築ける様、配慮している。
LR1 エネルギー エレベーターや階段、WCと言った、コア部分を西側に配置すること、外装にてLow-Eガラスの採用することにより、外部熱負荷を抑える様、意図している。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器の採用、リサイクル材料の使用、建築部材の再利用可能性向上等、省資源に配慮している。	LR3 敷地外環境 駐車場や駐輪場の確保により、周辺地域インフラへの負荷抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
株式会社しまむら新本社

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.4
1 音環境						3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						4.6	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T2以上				5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		TLD値50				4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		天井:岩面吸音板、床:タイルカーペット				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用						2.2	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		T-Light Blind				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		700lx				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		JAS規格F☆☆☆☆				5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		吸気口、排気口を異なる方位に設置し、且つ6m以上の離れ				5.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						4.0	0.40	-	-	4.0
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		一人あたりの執務スペース=9㎡~12㎡				4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						2.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		執務室天井高さ 3.0m				5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		自動販売機置き場の設置				5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		メンテナンスフリーに配慮した内装計画				5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		メンテナンスフリーに配慮した内装・外装計画				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		点検、清掃が容易な計画				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.25	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		11年~20年				4.0	0.13	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		11年~20年				4.0	0.13	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.25	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.25	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	1階:5,650mm、基準階:4,650mm	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.096	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BEI][BEIm] = 0.75	4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.75	3.5	0.50	-	3.5
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			省水型機器を使用	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.60	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.10	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			タイルカーペット、ビニル系床材、節水型の給排水器具	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			解体時に各部材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			指定化学物質を含まない塗料を使用	4.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	
1 消火剤				-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			風配図等の事前調査、設備機器のシミュレーション実施。	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.6	0.33	-	2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制			適切な駐車台数、駐輪台数の駐車場計画	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	
1 騒音				3.0	0.33	-	
2 振動				3.0	0.33	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	